



ジョイフル コミュニケーション!
Salesian Bulletin Japan

ドン・ボスコの風

No.
21
October
2018

｜ 特 集 ｜

耳を傾け、 共に歩む

【連載インタビュー】ドン・ボスコの教え子たち 通訳者 **高山 貴 (カオ・ディン・クイ) さん**
【ドン・ボスコのトモダチが暮らす街】 **野尻湖サレジオ山荘**／長野県上水内郡信濃町
【つながれ! サレジオ青年 SYM JAPAN】 第4回 Salesian Youth Day 青年夜間巡礼
【サレジオンピープル】 “神の憐みを伝えるために祈りの歌を歌いたい” スモールクワイア
【サレジオ家族探訪】 **チマッティ資料館**



寄り添われ、 支えられた体験を糧に

私が志願院に入った頃からお世話になっている村上康助神父は、つねに「耳を傾け、共に歩む」姿勢を貫く方です。あれこれ指示するのではなく、「これどうかな?」「ちょっとやってみよう」と勧めて、決断を促してくれました。また、若い頃、「ちょっとついてきて」と私を鞆持ちに連れ出しては、見て学ぶ機会を与えてくれました。施設長レベルの会議にも「代わりに行ってきて」と言ってくれて私を出席させてくれましたが、先々を見据えて、代理を経験させることで育ててくれたのだと思います。

私の11人きょうだいの5女である姉（サレジオン・シスターズの濱口八重野シスター）は、最も身近な存在として私を支えてくれる一人です。私が苦しいとき、辛いとき、心が揺れ動いているとき、姉としてそっと弟に寄り添い、また同じ修道奉獻の道を歩む者として励ましてくれました。

前管区長の山野内倫昭司教は、副管区長である私が支える立場だったのですが、むしろたくさん支えてくださり、トップに立つ者としてのモデルを見せてくれました。足元にも及ばない私ですが、山野内司教が学ばせてくれた姿に倣い、管区長として歩んでいきたいと思っています。

たくさんの人に支えられた人生を振り返って、傾聴にはいろいろな形があることを感じます。傍で深く寄り添う姿勢もそうですが、遠くから見守りながらずっとかかわり続ける姿勢も傾聴の一つでしょう。

そして、主イエスこそ耳を傾け共に歩んでくださる方であることを忘れてはいけません。主はいつも具体的な人を介して、私たちを支えます。私たちも先輩たちのように、きょうだいのように、神さまが私たちに望む在り方で「共に歩む」ことを実践してまいりましょう。

サレジオ会日本管区長

使徒ヤコブ **濱口 秀昭 神父**

2018年10月2日 守護の天使の記念日に



はまぐち ひであき

1958年長崎県佐世保市生まれ、60歳。長崎南山高等学校、上智大学を卒業、32歳で司祭叙階。東京サレジオ学園副園長、高松教区会計、調布サレジオ神学院長、サレジオ会日本管区副管区長などを務め、2018年6月より日本管区長。趣味は自然を味わうこと（海遊び、登山、魚・山菜料理を食べる、写真撮影など）。



2018年7月、管区長交代にあたり、山野内倫昭司教（前管区長）と濱口管区長はローマのサレジオ会総本部を訪問。左からローマ留学中の岡本大二郎神父、副総長フランチェスコ・チエレダ神父、山野内司教、総長アンヘル・フェルナンデス・アルティエ神父、濱口管区長。後ろの肖像画は第2代総長ミケーレ・ルア神父。

ジョイフル コミュニケーション!

ドン・ボスコの風

Salesian Bulletin Japan No.21 October 2018

Contents もくじ

4 特集 耳を傾け、共に歩む

悩む人に、勇気をもって寄り添う

耳を傾け、心を開くドン・ボスコ マゴーネ君とドン・ボスコ

インタビュー 意見を尊重されることによって、信頼関係ができる
臨床心理士 遠藤 愛さん

10 連載インタビュー ドン・ボスコの教え子たち 通訳者 **高山 貴** (カオ・ディン・クイ) さん

12 マリオ山野内倫昭司教から サレジオ家族の皆さんへ キリストのうちにあって、一つのからだ、一つの心となりますように

14 ドン・ボスコのトモダチが暮らす街 *Don Bosco Amici*
野尻湖サレジオ山荘／長野県上水内郡信濃町

18 つながれ! サレジオ青年 SYM JAPAN Salesian Youth Movement Japan
第4回 Salesian Youth Day 青年夜間巡礼

20 サレジオン スクールライフ! レポート

30 Salesian Family member interview 「今、私「〇〇」しています!」
サレジオ会神学生 堤 峻作さん パプアニューギニアで「宣教体験」をしています!

22 (Salesian People) サレジオン ピーパル スモールクワイア / イエスのカリタス修道女会 日本管区
“神の憐みを伝えるために祈りの歌を歌いたい”

24 サレジオ家族探訪 Visit the Salesian Family
チマッティ資料館 サレジオ会 調布サレジオ神学院

31 サレジオンライフストーリー ドン・ボスコのように生きる
ありがとう! 石井 靖人神父 子どもたちのために生涯を捧げた人

16 世界のサレジオ家族ニュース / 26 サレジオ家族 国内ニュース / 29 サレジオ情報募集

サレジオン・ダイアリー vol.04

「朝の放送」



多くのミッション校で行われているであろう「朝の放送」。日向学院中高でも週に2度やってくる。毎回のように「いい話だな」「心が温かくなったな」と思う。かく言う私が担当するとき、私には一つの流儀がある。話のはじめに、「ボン・ジョールノ!」と、スピーカーのメーターが振り切れるほどの大声で朝のあいさつを送ることだ。はじめは生徒たちを驚かせるつもりでやっていたが、いつしか生徒たちから「おはようございます」の代わりに「先生、ボン・ジョールノ!」とあいさつされるようになった。どんなにくどらなと思うことでも、ずっと続けるならばそれが一つのスタイルとなり、繰り返すごとに洗練されていく。それなら私も……。そう思いながら、今日もマイクの前で大声を上げる。「ボン・ジョールノ!」

今号の表紙



毎年夏に開催される野尻湖少年聖書学校では、参加者と同伴するサレジオ会員が2人だけで話す時間がある。自身のこと、将来のことなどをじっくり話すことで、かけがえのない信頼が生まれる。



ドン・ボスコとは?

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をさげた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ）。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。1934年列聖。

サレジオ家族とは?

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、31団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジオンファミリーとも呼ばれる。

中田 正一郎 神父
なかだ しょういちろう

1972年生まれ。46歳。日向学院中学校・高等学校副校長。宗教を教えているが、理科（物理）も大好き。音楽も好きで、ただ今楽器に挑戦中。

耳を傾け、共に歩む

耳を傾けることは難しい。

つい自分の考えばかり話したり、相手を否定したり、責めたり、沈黙が耐えられずに急かしたりしてしまいがちだ。

しかし、しっかりと耳を傾け、相手の存在を受けとめ、

信頼と友情に満ちた雰囲気を大切にするなら、

共に歩むという人間らしい生き方のうちに、

人生を分かち合いながら豊かに成長していくことができる。

●取材・文／編集部

悩む人に、勇気をもって寄り添う

Strenna poster



イラスト ©鈴木ぐり

「生きづらさ」を抱えたとき、たった一人でも親身になって、寄り添ってくれる人がいたら、どれほど気持ちが救われるでしょう。

2018年のサレジオ家族年間目標（ストレンナ）は「主よ、その水をください 耳を傾け、共に歩む 生き方を深めよう」。キーワードは「耳を傾け、共に歩む」ことです。サレジオ会総長のアンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は、この「耳を傾け、共に歩む」という術を学ぶヒントとして、聖書の「イエスとサマリアの女性」のエピソードを紹介しています。

Episode 1

イエスとサマリアの女性

（新約聖書「ヨハネによる福音書」4章1～42節の要旨）

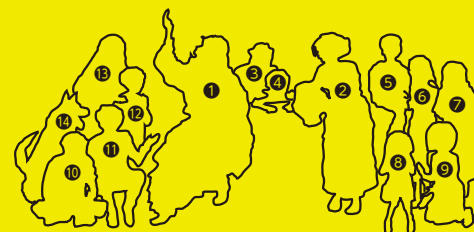
旅の途中、サマリアの町を通ったイエスは、疲れて井戸のそばに座っていました。人目を避けて水をくみに来たサマリアの女性に、イエスが「水を飲ませてください」と頼むと、彼女は「ユダヤ人のあなたがサマリアの女の私に、なぜ頼むのですか」と尋ねました。当時は民族的・宗教的偏見や男尊女卑が色濃い時代だったからです。

しかし、イエスは常識を破り、自ら相手に歩み寄っておだやかに話しかけ、彼女が人びとから蔑まれ痛みと苦しみを抱えている状況を感じ取り、否定も責めもせず、いつくしみ深く相手を受け止めます。

「私が与える水を飲む人は渇かない」というイエスの言葉に、女性は「その“尽きない水”の源泉がどこにあるのか興味がつり、「主よ、その水をください」と願います。イエスこそが“生きた水”、“救い主”なのだ」と悟った彼女は、町へ出て人びとに「この方こそ長い間待っていたメシアかもしれません」と告げ知らせに駆けて行きました。

ストレンナ2018 日本版ポスター イラストの登場人物たち

- ・歩き疲れてのどが渇ききった①イエスと、人目を避けて水をくみに来た②サマリアの女性が、井戸で出会います。イエスはこの女性に語りかけ、彼女の悲しみ・苦しみに耳を傾けます。そして、「私が与える水を飲む人は渇かない」と語るイエスに、女性が「主よ、その水をください」と願う場面です。
- ・井戸の奥には③ドン・ボスコと④オラトリオの少年がいます。井戸の中の水をのぞき込む少年に寄り添って、ドン・ボスコは「イエスさまをござん」と諭しています。
- ・井戸の右側には、⑤⑥困難や苦しみを抱えている夫婦がいます。その二人に⑦マンマ・マルゲリータが寄り添いながら、イエスを示しています。
- ・夫婦の足元で、⑧幼い女の子が泣きじゃくっています。⑨高校生のマナは笑顔でかんで、幼い女の子を安心させようとしています。
- ・井戸の左側には、⑩青年が地べたに座り込んで落ち込んでいます。⑪高校生のリクが青年を励まし、イエスのほうへと促しています。
- ・リクの後ろで、⑫少年ドメニコ・サヴィオがあこがれの眼差しでイエスを見つめています。そのドメニコを⑬聖母マリアがやさしく励まし、見守っています。マリアのそばで⑭グリージョもイエスを見つめています。



ストレンナ2018の日本版ポスターでは、この聖書のエピソードの場面に、漫画『コラッジョ!!』からドン・ボスコをはじめとする

仲間や現代人が一緒に登場しています。大人も子どもも一緒に「勇気をもって、傷ついた人に寄り添おう」と呼びかけています。

耳を傾け、 心を開く ドン・ボスコ

エピソード： マゴーネ君とドン・ボスコ

イラスト © 鈴木ぐり
漫画『コラッジョ!! ドン・ボスコの夢は続く』より



少年たちの告解を聴くドン・ボスコ。1861年、トリノにて撮影。告白している少年は後のサレジオ会第3代総長バオロ・アルベラ。

若者たちと心からの友達になれたドン・ボスコは、身分の高い人と接する時と同じ尊敬をもって若者たちを迎えました。若者たちが打ち明けることがどれも非常に大切なことであるかのように、最大の注意を向けて耳を傾けていました。

ドン・ボスコが実際どのように耳を傾けていたか、彼の著書『オラトリオの少年たち』にはたくさんのエピソードがあります。その中から、12歳の少年ミケーレ・マゴーネとの話を紹介しましょう。

元気いっぱいのガキ大将で、不良少年になる一歩手前の生活からドン・ボスコのオラトリオ（寄宿学校）に来たミケーレは、これまでの過ちに気づき、罪悪感など精神的な苦しみと直面します。そのとき、ドン・ボスコはどのように彼と対話したのでしょうか……

Episode 2

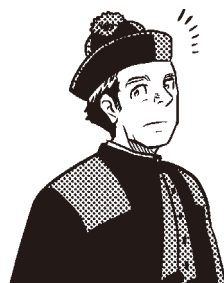
数日が過ぎ、彼はますます落ち込んで、悲しい気持ちになってしまいました。遊びですら重荷になってしまいました。もはや笑いもしませんでした。仲間が休み時間を楽しそうに過ごしている時でも、彼は片隅に引っこんで物思いに沈むことが多くなりました。時には泣いていることもありました。①私は彼を注意深く見ていましたが、ある日彼を呼んで次のような会話をしました。

「②マゴーネ君、ちょっとお願いがあるんだけど、断らないでほしいな」「なんですか？ 神父様の命ずることなら、なんでもしますよ」と彼は大胆に答えました。

「③しばらくの間、私が君の心のあるじとなることをゆるしてほしい。そして、このところ君を落ち込ませている原因は何なのか、私に話してほしいんだ」

「あ…はい。確かにおっしゃる通りですが…、ぼくは絶望していて、どうしたらいいかわからないのです」

こう言うと、彼は堰を切ったように泣き出しました。④私は彼をしばらく泣かせておき、傾合いを見ておどけたように言いました。



① 見守りながら、話すための良いタイミングを探し、待っている。

②③ 相手への最大の敬意をもって質問する。自分が話すのではなく、相手に話してもらう姿勢。

④ 必要な時間をゆっくり取り、相手の感情を大切にしている。

「⑤おやおや！ これが、あのカルマニョーラ・ギャング団のボス、『ミケーレ』將軍 かい？ なんて將軍さまだ！ 何が君の心の重荷になっているかさ言えなくなっているのかい？」

「言いたいですよ。だけど、どう言い出せばいいのか…どうやって説明したらいいかわからないんです」

「⑥一言でいいから言ってごらん。その後は私が続けてあげるから」「良心が、混乱してます」

「それで十分だ。もう、わかったよ。それだけ言えば、後は私が言ってあげるよ。⑦差し当たって今は、君の良心の問題に立ち入ろうとは思わないけど、ただ、すべてのことを正しく戻す方法だけを言っておこう。よくお聞き。君の良心の事柄が過去に解決されているなら、最後にゆるしの秘跡を受けた時から今までにしてしまった間違っただけについて、きちんとしたゆるしの秘跡をしなさい。それだけでいい。」

出典：ジョヴァンニ・ボスコ著『オラトリオの少年たち』より

おすすめの本！ NEW!

『オラトリオの少年たち』

ドン・ボスコによる傑作「ドメニコ・サヴィオの生涯」を含む、オラトリオの3人の少年の伝記集。神と人を愛して生きようとする3人と、それを見守るドン・ボスコの温かい姿を味わうことができます。

ジョヴァンニ・ボスコ著／アルド・ジラウド 解説・注釈／浦田慎二郎 監訳
A5判並製 380頁 ドン・ボスコ社



⑤ 相手の緊張をほぐし、話しやすくなるような雰囲気づくりをしている。

⑥ 心の中に抱えていることを言いやすいように招いている。

⑦ プロセスを大切にしている。相手の感情に土足で入りこまない。



Check Points

しっかり耳を傾けていますか？
5つのポイントをチェックしてみよう！

- 忍耐を欠いて、相手に話させずに自分が話してしまっていないですか？
- 相手の話をたびたび中断していませんか？
- 賛同できないことがあるとき、直情的に（言葉や態度で）反応していませんか？
- 耳を傾けている相手に「心を開ける」ことをおろそかにしていませんか？
- 私たちはだれもが、耳を傾けてもらうことが必要だということを忘れていませんか？

悩む人に寄り添い、共に歩むための
5つのポイント！

- 内に抱えているもの、相手にとって重荷や圧迫となっているものすべてを伝える機会を与えよう。
- 適切な質問をし、不信や対立を引き起こすような質問は避けよう。
- 沈黙を穏やかに受けとめよう。沈黙を不必要な助言や質問で埋めることなく、必要な時間をゆっくり取ろう。沈黙の時間は、相手が楽になり、ふり返る余裕をもつことができます。
- お互いの感情を受けとめながら、客観的に認識するように努めよう。
- 話しすぎることで、言葉数が多いこと、すぐに解決策を見つけようとするのを避けよう。大切なことは時間がかかること、プロセスが重要だということを忘れないようにしましょう。

フェルナンデス総長が教えます

耳を傾け、共に歩む人になろう！

出典：サレジオ会総長書簡 最高評議会報426号「主よ、その水をください 耳を傾け、共に歩む生き方を深めよう サレジオ家族年間目標ストレンナ2018」（2018年1月1日）より



Interview

意見を尊重されることによって、信頼関係ができる

家庭でも、学校や職場でも忙しい毎日。
日常生活の会話が少なくなっていますか？
せわしない会話になっていませんか？
本来じっくり時間をかけてこそできる会話。
会話は時間をかけて相手の話を「聴くこと」から始まります。
臨床心理士の遠藤愛さんに「耳を傾ける」ポイントを伺いました。

(取材・構成／編集部)



臨床心理士
えん どう あい
遠藤 愛さん

星美学園短期大学准教授として保育者養成、特別支援学校の教員養成にたずさわるとともに、臨床心理士として、さまざまな自治体の幼稚園・小中学校・高等学校の巡回相談を行っている。



聴くことそのものが一番大事

カウンセリングの基本姿勢には3つあり、そのうちのひとつが「傾聴すること」です。カウンセリングのいちばん大事なことは、聴くことそのものです。また、相手（クライアント）に対して「共感的な姿勢でかかわること」も大事にされています。「こうしたほうがいい」「ああしたほうがいい」という口出しは、相手の潜在的な自己回復力を妨げてしまいます。聴く側（カウンセラー）はあれこれ判断するのではなく、実際に困っている本人が話していくうちに自分の感情を整理できるようサポートします。この自己回復力を引き出す方法が「傾聴」です。

自分なりの解決を引き出す

カウンセリングのゴールは、相談に来るクライアントが決めます。聴く側（カウンセラー）が一方向的に終わりを決めるのではなく、クライアントが「心ゆくまで話してきた」「自分なりに考えがまとまった」と自身で終わりを決められることが理想的です。漠然とした不安やモヤモヤが、話すことによって明らかになったり、新たな気づきを得たりすることが大切なのです。子どもでも大人でも、自分が何に困っているのかを明確に述べられる人は健康です。自分の中で何が問題になっていて、何が自分に必要かをわかっており、自分の中で整理がついているからです。

引き出して、ほどいていく時間が大切

子どもの場合、明確に「これに困っている」とわかってる子はそれほど多くありません。何となく不快感や不適応感を感じている子が多く、自分のうちにある様々な事柄をうまくまとめられず、どう伝えたらいいのかもわからないのです。そのため、子どもからたくさんの言葉を引き出してほどいていくには時間が必要です。初めは言葉に乏しく、気持ちもストレートに表現できない子どもたちなので、彼らが「何かあったらまた話そう」と思えるような傾聴の姿勢でいることが大事です。

自らを知り、相手には正直・誠実であること

傾聴的な姿勢、共感的な理解に加えて、自らも相手に「誠実であること」も大事です。これは、相手の話を聞いて自分自身が感じたわだかまりや、自分の中で生まれた気持ちを適切な言葉で冷静に相手に伝えることです。本当の意味での共感とは、ただ相手の意見を受け止めて同調するのではなく、誠実であることから始まります。相手の年齢は関係ありません。また、相手の言葉や語りを真に「聴く」ためには、聴き手自身も、思わず感情的になってしまう話題、苦手としている話し手のタイプや態度など、自分もつ独特のくせや特徴、好みを知っておくとよいでしょう。

自分と他者は同じではない

特に思春期の子どもたちは、自分でこうしたい、自分はこうありたいという自我が芽生えます。そこにあまりにも大人の判断を加えていくと、子どもたちの「自分づくり」の邪魔になってしまいます。特に、一般に「おりこうさん」タイプの子どものとって、大人の断定的な意見は大変強く影響し、自分自身の意見を飲み込ませてしまう結果となります。大人の顔色をうかがい、自分を殺してしまうこともあります。自分はどう感じどう考えるのかを確認し、自分を作り上げていく大切な時期に、大人が答えを提示しすぎると、子どもたちの成長は妨げられてしまうのです。聴き手側（大人）の問題は、人が一人ひとり個性をもった存在であることを忘れ、すべて自分と同じであるかのように捉えてしまうことです。自分と相手は違うということを実感していないと、過剰に干渉したり、聴き手のほうが話し手になってしまうことがあります。自分と他者は似ているだけで、同じではないことを忘れてはいけません。

子どもの時間の流れ方に合わせて

小さな子どもは、まとまりのない話し方や本質的ではない話から時間をかけて自分自身を語り始めることが多く、聴くのは大変です。それでも、その子なりに形のない感情や体験を言葉にしていけるのを待つことはとても大切です。その子どもが自分の気持ちを整理できるための投げかけ、例えば「あなたの言っていることはこういうこと？」と言

うだけでも十分です。子どもたちは、そういう傾聴的な姿勢とのかかわりから「こういう言葉にすれば、相手には伝わるんだ」という言葉の学習をしていきます。それに、普段から言葉のやりとりを行っている子どもほど、語彙や表現が豊かです。言語の豊かさは経験値によって左右されるところが大きいので、言葉を交わす場を持っている子どもは、そうでない子どもに比べて、言語発達が豊かになるのは当然のことなのです。

また、子どもと大人では時間の流れの感じ方が違うことも忘れてはいけません。その時その時が、子どもにとっては大切で大きなものです。忙しさから子どもを急かしてしまいがちですが、子どもの感覚に合わせた姿勢で接しましょう。

尊重から信頼へ

私の体験から、子どもが自分のことを親に話したくなる、伝えたいのは、「親は絶対に私の言うことを否定しない」と知っていたからだと思うのです。親が自分を信頼してくれている、人格を尊重してくれていると感じる体験や、親に意見を引き出された感覚があります。意見を尊重されたことによって、信頼関係ができていたのだと思います。話すことによって自分の中のことを整理し、自分というものを理解していくことができました。

子どもは親に答えを求めていくというよりは、自分というものを知るために親に話しに行くのかもしれない。



ドン・ボスコの
教え子たち今、様々な分野で活躍している
サレジオン同窓生を紹介します。

●取材・文／編集部

通訳者

高山 貴さん

サレジオ歴／サレジオ工業高等専門学校(旧育英工業高等専門学校)OB

たかやま たかし

1964年ベトナム・ビエンホア省（現ドンナイ省）生まれ。1979年、16歳の時、共産主義政権下のベトナムからボートで脱出、2年後にインドシナ難民として日本に定住。サレジオ高専グラフィックデザイン科を卒業後、印刷業・写真製版会社に長年勤め、現在はフリーランスの通訳者として警視庁通訳センターで働く。カトリック教会に集う滞日ベトナム人の若者に“兄貴”として関わっている。

共産主義政権の抑圧を逃れボートピープルとして日本に
来た少年は、温かな支援者たちに支えられながら幾多の
困難を乗り越え、今は若者のために働いている。悩みや
困難を抱える滞日ベトナム人の若者に耳を傾け寄り添う
高山貴（カオ・ディン・クイ）さんに話を伺った。

日本に來られた経緯は？

1975年4月30日にサイゴンが陥落し、
ベトナムは北の共産主義政権によって統一され、南の軍や行政関係者、また宗教は激しく弾圧されました。

家族は私たちの将来を考え、1979年10月末、16歳の私と兄・弟・姉夫婦は、70人ほどの仲間とボートで国を出ました。海に出て4日目に日本に向かうノルウェー船に救助されました。当時、日本は難民の定住を受け入れていなかったの、私たちのグループは全員、一時的な滞在の予定で長崎県にある聖母の騎士のシスター（けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道女会）の修道院に受け入れていただきました。

長崎で2年近く滞在する間に、日本で暮らす決心をしました（1981年、日本政府



横浜港に上陸した時、助けてくれたノルウェー船上で上陸手続きをするために撮った写真（左から本人、弟、兄）



育英高専在学中、モダンダンスの発表会で（中央後列が本人）

はインドシナ難民の定住許可を閣議決定）。勉強する機会を求め東京に出て、仲間とアパートで生活を始めたところ、品川に国の難民支援施設である国際救援センターが開所し（2006年に閉所、現在は新宿のRHQ支援センターに移行）、そこに入所して日本語などを勉強しました。センターには粕谷甲一神父様が顧問としておられ、ミサがあり、勉強についての相談にも乗ってくれました。私は住み込みで日本語学校の奨学金が出る新聞配達をすることに

なりました。その後、高円寺教会の皆さんの支援を受け、サレジオ会の学校である育英高専（現サレジオ高専）に通い始めました。

ヘンドリックス神父様の面接を受け、1年間聴講生として通った後、グラフィックデザイン科に入りました。私のほかに7、8人のベトナム難民の若者が学んでいました。助けてくださる方たちとの出会いがあり、こんなに恵まれているのかな、と思うこともありました。難民の若者で全然恵まれない子もいたのです。

学校での思い出は？

並木豊勝神父様と伏木幹育神父様の倫理の授業がすごく好きでした。友達もたくさんできて、文化祭も楽しかった。卓球部に入りました。野尻湖のキャンプはとても楽しかった。夜になってホームシックになり、泣いたのを覚えています。

社会に出てからは？

凸版印刷のファミリー会社に就職して2年近く勤め、その後、同期の友人のお父さんが経営する写真製版会社に移り、25年ほど勤めました。今は通訳の仕事をしています。

このところ、私たちの通うカトリック川口教会で、ベトナム人の若者と関わっています。長く日本で暮らしてきた先輩として、今苦勞している彼らのために、こうしたほうが良いよとフォローしたり、悩みを受けとめたり、病気になれば一緒に病院に行くなどしています。ここ4、5年で多くの留学生や技能実習生が入ってきて、教会で彼らに出会い、きっと彼らはいろんな

現在の通訳の仕事について教えてください

警視庁に通訳センターという部署があり、私はフリーランスの通訳として登録しています。今3年目です。ベトナムの若者が日本に入ってくると、悲しいことですが、犯罪も発生しています。私は被疑者になって逮捕されたベトナム人のため、警察から依頼が来ると出かけて行きます。

警察の取り調べは、彼らもつらく感じています。心の動揺に気づいて安心させてあげることも私の役目ではないかと。実際に、取り調べが進んでいくと、心細いのでしょうか、表情が変わっていきます。髪の毛が抜けてしまったり、顔がげっそりしたり。



家族と。左から息子、妻、娘、本人。

人と人の関わりを大事にしてほしい。

仲間であっても、自分の知らない人であっても。

心配を抱えているはず、と思ったのです。そこで私に与えられている使命のようなものを感じました。

毎週日曜日に集まってお祈りし、わいわいおしゃべりして、何か悩みや心配を抱えている子がいれば話を聴く。ボランティアというよりもまず、人間と人間の関わりです。

私は今年55歳になるので彼らの父親の年齢ですが、兄貴のような存在になって、お互いに遠慮しないで話せるように心がけています。どんどん彼らの中に入り、初対面でも話しかけて、「どこから来た？」「いま大変なことはない？」「生活はどう？」など、単純なことから話します。

滞日ベトナム人の若者の悩みや問題は？

文化の違いなど、多様で複雑です。技能実習生は仕事で、契約と違う内容だったり、厳しい圧力があったり、言葉の問題で意思疎通できずお互い誤解する時もあります。暴力を受けることも。話を聞き、アドバイスをしています。川口教会のベトナム人のシスターは、病気になった若者、法律上の問題を抱えている若者、会社でひどい扱いを受けている若者などの声を拾い上げ、弁護士や医者などの専門家につなげ、私はそれをお手伝いしています。

卒業してから育英に恩返しができると思いますが、今、ヘンドリックス神父様がここにいらっしゃったら、「ありがとうございます、私今こういうことをやっています」と言いたいです。



カトリック川口教会でベトナム人の若者と一緒に語り合う

若い人々へのメッセージを

人と人の関わりを大事にしてほしいです。仲間であっても、自分の知らない人であっても。無関心ではちょっと困ります。本当に簡単なことなだけけれど。

できれば、この日本という国にもっと関心を持ってほしいと思います。私は戦争を経験していますが、毎年、8月の広島、長崎、終戦記念日、あるいは東京裁判や沖縄についてテレビ番組があれば見たいです。戦争を経験していなくても、こういうことがあったと知り、戦争は絶対にやってはならないと知ってほしい。平和を絶対に大事にしてほしいです。

人と人とのつながりを大事にすることによって、自分も相手も平和になりますね。

本当に小さなことですが、それが集まって大きな力になります。それを大事にして、皆一緒に平和な生活を送れるように願っています。

サレジオ工業高等専門学校
東京都町田市小山ヶ丘4-6-8
www.salesio-sp.ac.jp



サレジオ家族が関わりをもつ
世界そして日本の風景を紹介します。



野尻湖サレジオ山荘

長野県上水内郡信濃町

信越高原の山あい、妙高戸隠連山国立公園の標高654mに位置する野尻湖畔に、3つのサレジオ山荘（野尻湖教会、育英学院山荘、サレジオ学院山荘）がたたずむ。第二次世界大戦中は、外国人宣教師たちが集められてこの地に疎開し、食糧難に苦しんだ。毎年夏、大勢のサレジオ青少年が学校や教会の合宿で訪れて賑わうが、特に「野尻湖少年聖書学校」は2018年で46回目を迎えた伝統あるキャンプ。日本全国から集まった小中高生の仲間と一緒に、大自然の中で思いっきり遊び、信仰を分かち合う。日本のサレジオ会員の多くが、野尻湖少年聖書学校の出身者だ。

メイン写真：野尻湖サレジオ山荘前の桟橋に座り、大自然の中で朝の黙想のひと時。写真の正面に妙高山（2,454m）がそびえる。2013年撮影。
右写真：2018年8月、野尻湖少年聖書学校に参加した小中高生は飯縄山（1,917m）の登山に挑戦。長くけわしい山道を仲間どうし励まし合って、ついにたどり着いた頂上で。





2018年9月24日、明の星学園ジュビリーホール（埼玉県さいたま市）で行われたカトリックさいたま教区司教叙階式にて。

Message from
Bp. Mario

マリオ山野内倫昭司教から
サレジオ家族の皆さんへ

キリストのうちにあって、 一つのからだ、一つの心となりますように

教皇フランシスコは、2018年6月2日、サレジオ会日本管区長のマリオ山野内倫昭神父を、カトリックさいたま教区の司教に任命したことを発表。9月24日、明の星学園ジュビリーホール（埼玉県さいたま市）で司教叙階式が行われ、山野内師はカトリックさいたま教区司教として着座した。これまでアルゼンチンそして日本のサレジオ会とサレジオ家族に関わる人びとのために働いてきたが、これからはさいたま教区（埼玉・栃木・群馬・茨城の4県）に住む人びとと日本の教会のために働く。山野内司教にサレジオ家族へのメッセージを伺った。

．．．．

2018年7月、
教皇フランシスコとバチカンで謁見。

司教に任命されて

私は大きな驚きをもって、教皇フランシスコからのさいたま教区司教の任命を受けとめました。私とサレジオ会を信頼してくださる教皇様に感謝いたします。

そして、教皇フランシスコが教皇に選ばれて最初のあいさつの際にされたように、私も皆さん一人ひとりに、私のために祈ってくださるようお願いします。どうか私が、善き牧者である「羊のにおいをもった」司教であることができますように……。私からは皆さんに祝福を贈ります。

サレジオ家族の皆さんに心から感謝

1964年、8歳の時に、私は家族と共に日本からアルゼンチンへ移住し、33年をそこで過ごしました。41歳になった1997年、浦島太郎になったような気持ちで日本へ帰ってきました。日本に帰国した時には、日本語はまならず、知り合いもほとんどいませんでした。それから22年の間に、たくさんの方々と出会って友人となり、とくにサレジオ家族の皆さんと深い絆ができたことは、神のみ摂理であると思います。そしてこのたび、さいたま教区の司教に任命されましたが、気持ちとしてはサレジオ会・サレジオ家族から、さいたま教区に派遣されるという思いです。

サレジオ家族の皆さんには、これまで私を支えてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。どうか、これからも支え続けてくださるようお願いします。

さいたま教区を訪れてください

サレジオ会は東京より北に拠点がなく、さいたま教区にもありません。でも、ドン・ボスコの友人や同窓生はきっと多くいるでしょう。教区内の4つの県、埼玉・群馬・栃木・茨城には、2016年のデータ（カトリック教会現勢）によると、人口およそ1,400万人のうち日本人のカトリック信者数は約2万1千人（人口の0.15％）にすぎません。でも、福音の価値を生きている人がどれほどいるか尋ねられるなら、その割合



四日市サレジオ志願員の志願生たちと。2016年9月、カトリック浜松教会を訪問して。

はずっと大きくなるでしょう。

また、このデータに含まれない多数の外国人信徒が在住していると推計され、カトリック共同体の7割以上が日本で働く移住者と考えられます。国際結婚の子どもたちも多く、難民として日本の在留資格を申請し、待っている人びともいます。また最近では外国人技能実習生が増えています。仲介業者を通して、3～5年の契約で日本に来た若者たちで、ベトナム人が最も多くを占めます。

ぜひ、さいたま教区のことをもっと知って、巡礼のような形でいらしてください。

キリストのうちに、皆さんと共に歩む

司教叙階の準備の黙想として、8月下旬に18人のサレジオ会員たちと共に、聖地イスラエルでの巡礼黙想会に行きました。ナザレ、ガリラヤ、エルサレムなど、イエスさまがお生まれになって生活し、神の国の到来を宣言して、いのちを私たち人類のためにささげ、復活された場所を巡り、黙想しました。そして、サレジオ家族の皆さんの顔を一人ひとり思い出しながら、皆さんと共に、皆さんのために祈りました。

私が派遣されるさいたま教区も、イエスさまの生涯の神秘と一致して歩むことのできる“聖地”といえるでしょう。皆さんと共にそのように歩んでいけるよう、司教叙階のモットーとして「キリストのうちにあって、一つのからだ、一つの心となりますように」（ミサの第三奉献文より）という言葉を選びました。

ドン・ボスコの夢の実現に向けて

サレジオ会日本管区の副管区長として3年間半、共に歩んでくださった濱口秀昭神父様が、新しい管区長としてフェルナンデス総長から任命されました。濱口神父様はサレジオ家族の担当者でもありましたので、サレジオ家族の皆さんのことをよくご存じだと思います。ドン・ボスコの夢が現代の日本でも豊かに実現できますように、日本のドン・ボスコの代表であり、サレジオ家族の絆の中心である濱口管区長と共に歩んでくださるよう、皆様をお願いいたします。

カトリックさいたま教区司教
（前サレジオ会日本管区長）
マリオ 山野内 倫昭 司教



まりお やまのうち みちあき

1955年12月8日、大分県佐伯市生まれ、62歳。8歳の時、家族とアルゼンチンへ移住。1975年アルゼンチンのマヌーチョでサレジオ会修練院に入り、1984年29歳で司教叙階。アルゼンチンの哲学院で哲学・社会学などを教え、司教担当・院長・アルゼンチンとパラグアイ6管区の修練長を経て、1997年（41歳）帰国、日本のサレジオ会員として働く決意をする。

日本では、育英高専（現サレジオ高専）・杉並支部院長、調布サレジオ神学院長、副管区長・サレジオ家族担当・養成担当、2014年12月より日本管区長を務め、サレジオ家族のアニメーターとして各グループとの絆を深めてきた。

2018年6月2日教皇フランシスコから司教に任命され、2018年9月24日司教叙階、カトリックさいたま教区司教として着座。趣味はギター演奏。

■マリオ山野内倫昭さいたま司教の紋章

キリストのうちにあって、
一つのからだ、
一つの心となりますように
（第三奉献文）



-  神の御言葉：神は愛です
-  船：み言葉を宣べ伝える教会
-  蓮の花：人々を結ぶ平和と愛のシンボル
-  星：私たちと共に歩む聖母マリア
-  日光の男体山と中禅寺湖：地球は私たち皆の共通の家

■司教って？

「司教」はイエスの十二使徒の継承者。教皇から任された地域（教区）の牧者で、教会活動の責任者。神父（司祭）は司教に協力して、各地の教会（小教区）で宣教活動や信徒の世話をする。



ドイツ

ドン・ボスコ・ボランティア
51人の若者を各国に派遣

News Source: ANS



各国に派遣されるドイツのドン・ボスコ・ボランティアの若者たち

2018年9月、18歳から28歳のドイツの若者51人が、「ドン・ボスコ・ボランティア」として世界中のサレジオ会の事業所に派遣され、奉仕を開始する。この1年、「Aktionszentrum Benediktbeuern ペネディクトボエルン活動センター」とボン宣教事務局で研修を積み準備してきたボランティアたちは、アルバニア、ベナン、ボリビア、ガーナ、インド、コロンビア、コンボ、モルドバ、モンテネグロ、ルワンダ、ザンビア、トーゴに派遣される。

若いドイツ人ボランティアたちは主に、子どもたちの宿題

の手伝い、午後の時間の世話、授業での補助、余暇の活動の企画などを担当する。スポーツやゲーム、美術や音楽、工作や教育的な活動、パーティーや遠足を企画することも、活動の一環となる。

「私たちは『ドン・ボスコ・ボランティア』を学びの奉仕ととらえています。皆が、自分の才能、能力、興味にしたがってさまざまなプロジェクトに参加します」とドイツ・サレジオ会のボランティア奉仕のコーディネーター、シュテファン・シュートル神父は語る。昨今、若者は特定の分野で、期間を限定して奉仕することを望む。「ドン・ボスコのボランティアに奉仕の機会を提供し、同時に教会について直接、具体的に学び、自分の抱いている確信をこの1年の間に振り返る機会を若者に与えたいと、私たちは願っています。」

さらに別の35人が、この秋、ドイツ各地のサレジオ会支部でボランティア奉仕を始める。

ローマ総本部

SYM サレジオ青年運動30周年

News Source: ANS



30周年を迎えたSYM。若者たちと共に歩む旅は続く。

スコ生誕200周年に正式に発足。少しずつドン・ボスコに連なる若者たちの交わりが深まりつつある。

サレジオ会青少年司牧部門の顧問ファビオ・アッタール神父は、この記念の年にあたり、若者だけでなく大人たちにも次のように呼びかけている。「私たちは大いに同伴する必要があります。若者が旅をすることができるように。若者にとって必要なのは、若者と共に旅を歩み、彼らがイエスを知り、愛し、より近づくことを助けることができる大人たちと出会うことなのです。」

バブアニューギニア

サレジオ学生
全国の集い開催

News Source: BoscoLink



Wantok Boscoに参加したバブアニューギニアの学生リーダーたち

2018年9月、バブアニューギニアのサレジオ会の学校の生徒たちが、Wantok Boscoを祝うため、全国から初めて一堂に会した。[WANTOKとは現地で話されるピジン語の言葉で、英語のONE TALKから来ている。(同じ言葉を話す)「仲間」という意味]

集いを企画したのはサレジオ会の青少年司牧部門。この泊まりがけのイベントに、ドン・ボスコ・アライミリ中等学校（湾岸州、ケレマ）、ドン・ボスコ・技術訓練校（ガブトゥ）、ドン・ボスコ技術専門学校（ポロコ）、カリタス技術専門中等学校（ポートモレスビー）から200人の若者のリーダーやアニメーターが集まった。

セネガル

移民人身売買防止のための
小さな農業プロジェクト

News Source: ANS



セネガル・タンバクワンダの子どもたち

サハラ以南のアフリカから、よりよい境遇を求めてヨーロッパへの移住を目指す人びとが後を絶たない。そうした人びと

聖マリアの誕生を祝う祈りの集いの後、若者たちは、サレジオ家族のメンバーが進行役を務めるワークショップに参加。若者の奉仕者やアニメーターたちは、ドン・ボスコの使命を前進させるためにどのような活動を行っているかを互に分ち合った。

ゲーム、祈り、仲間どうしの絆を深める時間など、Wantok Boscoのプログラムを通して、ドン・ボスコの学校の生徒たちは、話し合いだけでなく、グループ活動のさまざまな体験を分かち合った。

ハイライトは、ユースフォーラムだった。ゲスト・スピーカーたちがテーマ「若者に仕える若者：奉仕する生き方の識別」について、それぞれの体験を分かち合った。若者たちは、ゲスト・スピーカーが提示したポイントについて話し合い、サレジオの若いアニメーターやリーダーとして、より生き方を深め、より積極的に活動するよう挑戦していききたいと表明した。また、サレジオの若者が集う活動をもっと行いたいという望みを共有した。

今回のイベントは、バブアニューギニアとソロモン諸島のサレジオの若者が、管区レベルでより多くの機会に集うよう道筋を示すものとなった。

の多くが犯罪組織などに巻き込まれて搾取され、人身売買の被害に遭っているという。

サレジオ会は、セネガル東部タンバクワンダの最貧地区でサレジオ家族やサレジオのNGOなどと協力しながら小さな農業プロジェクトを展開し、潜在的

な移民に教育や農業・職業訓練を行いながら、若者たちのセネガルでの自立を促し、人身売買の防止に努めている。



DBK[ドン・ボスコ基金]は、
特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、
サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

DBKウェブサイト

http://salesians.jp/about/dbk

機関誌「DBKだより」バックナンバーも
ご覧いただけます。



DBK [ドン・ボスコ基金] では、ボリビア、モンゴル、南スーダン、東ティモール、日本国内など、世界各国のサレジオ関係グループによる青少年の保護育成プロジェクト等を支援しています。
ご寄付くださる方は、下記の振込口座まで（または本誌とじ込みの払込用紙にて）お振り込みください。

郵便振替口座番号: 00190-5-292253

加入者名: ドン・ボスコ基金

※通信欄の寄付意向にチェックを入れて、寄付金額をご記入ください。寄付者氏名の非公表をご希望の方は、払込用紙に「匿名希望」(☐チェックマーク) をご記入ください。

ペルー

アマゾン地区の
青少年センターガエターノ・ガルブセラ司教(サレジオ会)
大城ルイス神父

青少年センターの庭は地元の人が集い、くつろげる場

ペルーのアマゾン地区にあるブカルパ教会には、毎日曜日に約2,500人がミサに訪れ、子どもたちは教会学校にやってきました。平日も大勢の貧しい人や青少年が助けを求めて教会に来ます。この教区のカエターノ・ガルブセラ司教(サレジオ会)のもとで、私(日系ペルー人の大城ルイス神父)は働いています。

私は5年ごとに日本の栃木にいる親戚を訪問していますが、

2013年に来日した際、DBK [ドン・ボスコ基金] からペルーのアマゾン地区の教会のためにたくさんの寄付を頂きました。その年から今年2018年まで約24,000USドルの支援をいただき、おかげさまで、カテドラルの青少年センターの屋根が完成しました。また様々な青少年・教会活動のために印刷機、スピーカー、コンピューター、電子オルガンを購入でき、教区神学生の衣類を整えることもできました。

取り組むべきことは、まだたくさんあります。まず青年たちがペルーの首都リマで行われる全国大会に参加できるように。また、アマゾン川沿いに新しい小さな宣教センターを立ち上げる必要があります。公衆電話がまだない団地に電話を設置すること、教区神学生の養成の経済的問題など、様々な課題が残っています。

これからも引き続き、日本の恩人の皆様からのご支援とお祈りをよろしく願いいたします。感謝のうちに。

バブアニューギニア

幼児のための
学習センターサレジオ会
ジョセフ・タン神父

学習センターの司祭、先生、子どもたち

私たちのアライミリ教区は、バブアニューギニアの首都ポートモレスビーから約400km離れた海岸沿いにあります。この地域は道路も通じておらず、電気も来ていません。孤立しているため、村の人びとは経済的発展や医療、教育など多くの面で恩恵を得られず、識字率は非常に低い状況です。

この宣教地を担当しているサレジオ会は、地域を発展させるために、子どもたちの教育に取り組んでいます。神の恵みと多くの人びとの努力により、教区全域ですべての小さな子ども

日本

多文化共生センター東京

多文化共生センター東京
代表理事 榎木典子

「たぶんかフリースクール杉並校」で学習する生徒たち(サレジオ会研修施設 杉並サイテックにて)

平素より、外国にルーツをもつ子どもたちの学びに深いご理解をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

温かく見守っていただいている「たぶんかフリースクール杉並校」も2年目を迎え、落ち着

もたちに幼児教育と訓練プログラムを実施する学習センター(幼稚園)を3か所建設できました。合計180人の園児と9人の先生がいます。先生たちは皆、村の母親と若い女性です。子どもたちは非常に貧しい家庭から来ているため、学習センターは、子どもたちと先生に学習教材のすべてを提供しなければなりません。

私たちは日本のDBK [ドン・ボスコ基金] から5,000USドルのうれしい支援を受け取りました。この金額は、2018年度の先生の給与に充てることが出来ます。私たちは教育こそが、地域の変化と発展の根幹であると確信しています。そして教育は常に心の問題です。日本の皆さんの優しい心が、多くの貧しい子どもたちの心に届き、心の救いになったと、また、ドン・ボスコの使命にかなったと信じています。

主がいつも日本の皆さんに豊かな祝福を与えてくださるように、日々の祈りをささげます。また、このミッションを継続的に支援して下さることを待ち望んでいます。

いた環境の中で子どもたちは安心して学習に励んでおります。頂きましたご寄付に、心より感謝申し上げます。

現在、東京では公立小中高に在籍する外国にルーツをもつ子どもたちが1万3千人を超え、彼らの教育は切実な課題となっております。「たぶんかフリースクール」で学ぶ生徒は、荒川、杉並両校で40人を超え、埼玉県、千葉県から通学する生徒も増えています。

学びの場と居場所を必要としている、外国にルーツをもつ子どもたちと保護者にとって「たぶんかフリースクール」は、大切な役割を担い続けております。

子どもたちが、笑顔で将来への夢を切り拓いていただけますよう、引き続きお力添えをお願い申し上げます。

第4回

Salesian Youth Day 青年夜間巡礼

2018年4月28～29日、サレジオ家族の青年ら約40人が鷺沼教会に集い、4回目となる夜間巡礼を行いました。調布のサレジオン・シスターズ管区本部で祈り、小平のサレジオ小学校・中学校と東京サレジオ学園までの計20kmの道のりを完歩しました！

巡礼のテーマには、2018年のスレンナ「主よ、その水をください～耳を傾け、共に歩む生き方を深めよう」を掲げ、出発前にみんなで「傾聴してもらった体験」を分かち合いました。そのうちのいくつかをご紹介します。

START!

Saginuma Church

受け入れてもらえたと感じたこと

私はキリスト教の大学に入って、教会と出会いました。でも何度か教会を訪れては、気が変わって行けなくなり、時間が経つとまた別の教会に足を運ぶことを繰り返していました。

あるとき、近隣のカトリック教会でミサにあずかりました。この時も一度きり、その後引っ越したこともあって再び訪れることはないと思っていたのですが、紆余曲折あり3年後にその教会の近くに帰ってきました。3年ぶりにその教会を訪れ、ミサにあずかると、一人の信徒さんが私の隣に座って、いろいろと教えてくれました。じつはその方は、私が3年前にその教会を訪れたときにも、隣で案内してくれた方でした。

ミサ後、自分とキリスト教とのかわりや、これまでのことをたくさん話しました。その方はやさしく話を聞いてくれました。また私が3年前にも来たことを話すと、「この教会に来るように導きがあったのね!」と飛び上がるように喜んでくれました。その姿に、自分を受け入れてもらえたことを感じて、私もとてもうれしくなりました。

今思い出すと、あのとき傾聴して下さった姿にイエスさまの愛を感じます。放蕩息子のたとえのように、帰ってきたときには共に喜んでくださるイエスさまの姿も思い浮かびます。

そんな傾聴の姿とイエスさまの愛に支えられてか、そのときから教会に続けて通うようになりました。そして1年後の復活祭で洗礼を受け、今に至ります。私も出会う人びとに少しでも寄り添い、耳を傾け、受け入れることができるようにと、祈りながら日々を歩んでいます。

鷺沼教会 梶原 武統さん(28)

好きな聖句 「主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない」

Salesian Sisters
Provincial House

SYM事務局からのお知らせ

第19回SYMの集い★スペシャル

～総長と若者の集い～

来る11月、サレジオ会第11代総長のフェルナンデス神父が初来日します！ 総長と直接お話ができるかも？！いつも若者のことを考え、祈ってくださる総長をたくさんの若者であたたかくお迎えしましょう！

日時：2018年11月10日(土)16:30集合 ※21:00終了予定
会場：調布サレジオ神学院／カトリック調布教会(調布駅より徒歩20分)
内容：夕食、レク、総長への質問タイム、総長のお話、分かち合い、祈り
対象：サレジオ家族の高校生・青年(30歳まで)

▼参加申し込みはこちら
[10月28日(日)締切]



お問い合わせ先：
SYM JAPAN事務局
symjapan@salesians.jp

翌11日(日)は東京・赤羽の星美学園にて Salesian Family Dayが開催されます！サレジオ青年イスラエル巡礼の報告会もありますので、ぜひご参加ください。

SYMのインスタ、
できました！



参加して下さった調布・碑文谷・下井草・鷺沼・大和の教会とDBVGの青年、サレジオ小学校・サレジオ学院・サレジオ高専・星美学園・野尻湖聖書学校・フォルティッシモの同窓生の皆さんと、ご協力くださった神父様・シスター方ありがとうございました！

Salesian Primary, Junior High School
& Salesian Boy's Home



GOAL! ★

どんなに 忙しくても...

私がいちばんうれしかった体験は、両親や知り合いなどの身近な人に、どんなに忙しくても、まるで忙しくないかのように、どんなにやらなきゃいけないことが山積みでも、そのときだけはずっと暇だったかのようにふるまい、何気ない学校のことや、自分の趣味のこと、好きな音楽のことなどを、興味をもちながらゆっくり聞いてもらったことです。

下井草教会 宮嶋 南帆さん(20)

好きな聖句 「天に富を積みなさい」

私、信者です！

あるとき、大学の講義の中でカトリックに関する内容が話されました。その影響もあったのか、同じころに同期の一人が「カトリックに興味がある」と言いました。そこで「私、信者です」と信仰告白をすると、とても驚かれました。

またある日、その同期に「イエスはなぜ十字架につけられたの?」と聞かれました。教会の仲間ではなく、大学の同期と神さまのこと、イエスさまのことを分かち合えたことが、とてもうれしかったです。話を聞いてくれた同期に、この機会を与えてくださった神さまに感謝しています。

そして、この分かち合いは小さな福音宣教にもなると感じました。またいつか、このような機会に恵まれるといいと思います。

聖書学校OB 姫野 倭一さん(19)

好きな聖人 「大天使ミカエル」

▶ **サレジオ学院中学校・高等学校** (神奈川県横浜市)

ドン・ボスコ・トリビアクイズ



サレジオ学院中学1年生の宗教の授業で

サレジオ学院中学校・高等学校では、授業力の向上を目的に、年間を通じて各教科で研究授業を行っています。校長の鳥越政晴神父による「宗教科」の研究授業もあります。鳥越校長は中学1年の宗教科でドン・ボスコの生涯をたどる授業を行っています。この日の研究授業では「ドン・ボスコ・トリビア」と題して、生徒たちがQ&Aを作成し、お互いに楽しくクイズに取り組みました。

▶ **静岡サレジオ** (静岡県静岡市)

小中高合同で聖母祭



静岡サレジオの聖母祭の様子

静岡サレジオでは、毎年5月の「聖母月」に、小学校・中学校・高等学校の全児童・生徒・教職員と一緒に「聖母祭」を行います。聖母祭は聖母マリアを讃え、お祝いするものです。ド

ン・ボスコはいつも聖母マリアを模範とし、青少年の心に愛情、知性、正しい良心を育てました。静岡サレジオでも5月の間、聖母マリアにならい、よい行いをマリア様におささげる「徳の花」を実行し、聖母祭を祝う心の準備をします。

聖母祭の当日は、学園の全校児童・生徒・教職員がマリアンホールに集い、ドン・ボスコスクールバンドのファンファーレでセレモニーが始まります。次にプライマリー、ミドル、カレッジの3ステージの代表者が発表を行います。小学校3年生は探究の時間を中心に考えてきた「What is your role?」を発表しました。すべての人やものには役割があり、その役割を果たすことが自分や周りの人を幸せにするのだと訴えかけ、あなたの役割は何ですか?と問いかけてました。最後は皆でカーネーションの花束と徳の花、マリア様への手紙を奉献し、皆の心がこもった素晴らしい聖母祭になりました。

▶ **大阪星光学院高等学校** (大阪府大阪市)

国際物理・化学五輪で3人がメダル獲得

2018年7月、ポルトガルで開かれた第49回国際物理オリンピックで、大阪星光学院高等学校2年の末広多聞さんと3年の永浜壮真さんが銀メダルを獲得しました。

また、スロバキア、チェコ両国で開かれた第50回国際化学オリンピックでは、3年の福本優斗さんが銅メダルを獲得しました。

物理オリンピックは86か国・地域から396人、国際化学オリンピックは76か国・地域から300人が参加。両オリンピックには日本の高校生代表計9人が参加し、全員がメダルを獲得しました。

▶ **目黒星美学園中学高等学校** (東京都世田谷区)

フィリピンボランティア研修



目黒星美学園高等学校のフィリピンボランティア研修の様子

2018年8月1～5日の5日間、目黒星美学園中学高等学校4年と5年の希望者20人が、フィリピンボランティア研修に参加

しました。ここ数年は12月に実施しており、8月の実施は久しぶりです。マニラにある児童養護施設ラウラ・ビクーニャセンター(サレジオン・シスターズ)に滞在し、センターの子どもたちと過ごしたり、ドン・ボスコ・スクール(サレジオン・シスターズ)の生徒と交流したり、放課後のオラトリオで地域の子どもたちと一緒にレクリエーションを行ったりしました。

今回は事前の準備に時間をかけ、参加した生徒は貧富の差などフィリピンが抱える諸問題を数回に分けて学び、現地に臨みました。参加者の感想をいくつか紹介します。

「自分と違う境遇の中で生活している同年代の子どもたちとどのように関わっていけばよいかを学べた。彼女たちと大切な思い出ができた。」

「ラウラの子たちの笑顔が、問題を抱えていると思えないくらい純粋で驚きました。ずっと笑顔でフレンドリーで、今を頑張っている感じがしました。」

「英語が苦手なので、ドン・ボスコ・スクールの子たちとはあまり話せなかったけれど、ジェスチャーとか単語で言ったら理解してくれた。」

「実際に行ってみて、町中にゴミが落ちていた印象が大きいので、ゴミ拾いをしたいと思いました。」

「たくさんの子どもと触れ合い、日本では経験できないことをたくさん経験できた。」

▶ **日向学院中学校・高等学校** (宮崎県宮崎市)

高校オープンキャンパスとサマースクールを開催



日向学院での高校オープンキャンパスの様子

2018年8月4日、日向学院高等学校のオープンキャンパスが開催されました。高校オープンキャンパスは、生徒会を中心に、いろいろな部活動が加わって、生徒が中心になって運営しています。特に今回も生徒会による行事説明、制服紹介は大好評でした。夏休み中の猛暑日にもかかわらず、大勢の中学生と保護者の方々が来校しました。

翌5日は、小学生を対象にしたサマースクールが開催されました。夏休みの自由研究のヒントになればという狙いもありま

すが、何よりも学ぶ楽しさを知って、体験してもらおうというものです。大勢の小学生と保護者の方々が参加してくださり、在校生も積極的に手伝って、日向学院らしいアットホームな行事となりました。

▶ **星美学園中学校高等学校** (東京都北区)

シェアド・リーダーシップを学ぶ



星美学園中学校高等学校でのシェアド・リーダーシップのワークショップ

2018年9月19日、星美学園中学校高等学校では、高校1年の「国際」の授業で「シェアド・リーダーシップ」について学ぶワークショップを行いました。

星美学園の教育の柱の一つである「シェアド・リーダーシップ」とは、一人ひとりが持ち味を活かし、必要な場面でリーダーシップを発揮していくという考え方です。運動が得意な人は体育祭でクラスをまとめ、音楽が得意な人は合唱コンクールでクラスを引っ張るなど、自分の個性を活かして活躍できるようサポートします。

この日のワークショップでは、誕生日の日付順に並んだり、4～5人のグループに分かれて30個程度の紙コップをできるだけ高く積み上げたりなどの体験を通して、「各ミッションをクリアするために、だれがどのような役割を果たしていたか」に気づきます。積極的に指示を出していた人、指示をよく聞いて素早く動けるよう工夫した人、周囲を整理整頓して皆が動きやすいよう気を配った人、指示は出さず自分のわかる範囲で動いた人など、その良し悪しではなく、自分が向いていること、皆の役に立てることなどを考え、気づく機会となります。

星美学園中学校高等学校では、学校生活の様々な場面でだれもがリーダー的役割を担う機会があり、リーダーをフォローすることも体験しながら、グループで協力し合う喜びを学んでいます。



（サレジアン・ピープル）

世界そして日本のサレジアンな人たちを紹介します。



スモールクワイア

Small Choir

イエスのカリタス修道女会 日本管区
Suore della Carità di Gesù, Japanese Province



2017年9月、カトリック町田教会でのチャリティコンサートで。

神の憐みを伝えるために 祈りの歌を歌いたい

天使のような澄み切った歌声にのせて、祈るように深くしみわたるメッセージを届け続けているイエスのカリタス修道女会の聖歌隊「スモールクワイア」。教会奉仕だけでなく、刑務所などの慰問や、被災地でのコンサートなど精力的に活躍しているシスターたちの取り組みを紹介します。（文・写真／イエスのカリタス修道女会）

歌を大切にする理由

イエスのカリタス修道女会の創立者カヴォリ神父は「教会生活の頂点であり源泉である典礼*」祭儀を荘厳に行うため、また教会音楽を通してキリスト教を効果的に伝えるため、聖歌や器楽の練習に力を入れるよう勧めていましたので、私たちは伝統的に聖歌の練習を大事にしてきました。全員で歌う時を“ビッククワイア”、聖歌隊だけで歌う時を“スモールクワイア”と呼んでいます。

*典礼：ミサや祈りなど教会が神にささげる礼拝のこと

CDをきっかけに、外へ出かけるように

スモールクワイアは、修道会内の典礼や行事の時に歌を担当していますが、「宣教のため、特に病気で教会に来られない方のためにCDを作成しては」と、当時の管区長の提案で、2002年にCD『私をお使いください』を制作しました。その後さらに3枚のCDを制作。これらのCDは口コミで広がり、やがてスモールクワイアは教会関係の行事、医療刑務所、医療少年院、そしてチャリティコンサートなどに招かれるようになりました。



東北被災地の復興を願うクリスマス・ミニコンサートツアーの一コマ。2017年12月、南三陸町のぞみ福祉作業所で。

被災地の方々と共に

2011年の東日本大震災の時には、ボランティアペースで活動していた本会会員から、「東北に歌を届けに来てください。被災された方々は慰めと力を必要としています」との願いが届きました。まず震災2か月後の2011年5月に訪問することができました。現在は年に1度ほどですが、昨年12月に訪れた時、参加した会員たちは次のように気持ちを綴っています。

「私は、曲に込められたメッセージを手のひらにのせて丁寧（ていねい）にふれるように、心を込めて歌うよう意識しました。初対面でも皆さんの様子から、『歌のメッセージが届いている、私の心の想いが被災者の方々の心へ真（ま）つすぐに響いている』と肌で感じました。」

「イエス様を運ぶことが目的です。イエス様なら、傷ついたこの世界に、人々の心の中に来てくださり、必ず必要な恵みと愛で満たしてくださいと信じて歌いました。」

「以前にも歌いに来たことを覚えてくれていて、『また来てくれたね』と、喜びを表してくださいました方々の声を通して、勤務を調整しながら参加し続けられたことを感謝し、その苦労を超えた宣教の喜び・歌の力を感じました。」

この訪問の時にカリタス南三陸のペース長さんも次のメッセージをくださいました。

「全くキリスト教に縁もゆかりもない方たちの所で、大切なことを歌を通して伝え、被災された人々の心を癒（い）すことができるのは、イエスのカリタスの皆さんの賜物であり、本質的な宣教だと感じています。」

この言葉のとおり、人々の間で歌を祈りとして神に捧げ、神が共にいてくださることを証しできるよう願っています。

◆スモールクワイア CDの入手方法

「イエスのカリタス友の会」をとおして宣教活動への寄付のご協力をしてくださる方に、スモールクワイアのCDを御礼として差し上げています。『私をお使いください』、『心からの感謝を』、『かけがえのないのち』、『祝福の歌』の4枚のCDがあり、現在5枚目を制作中です。ご希望の方は、下記ウェブサイトまたは電話でお申し込みいただけます。

http://www.m-caritas.jp/05todoke/small/cd_information.html#get_the_CDs
TEL: 03-3396-2171 イエスのカリタス修道女会管区本部 CD依頼



スモールクワイアの公開練習。2017年6月、東京・杉並のイエスのカリタス修道女会日本管区本部で。

共に歌い祈る公開練習

「練習に参加してみたい」という声を受け、共に神を賛美できるよう、2011年から一般の方も参加できる公開練習の日を、月に1度設けています。参加者の感想です。

「スモールクワイアとの出会いは3年前です。ご指導は、『言葉を音にのせ、前方の祭壇に届くように、高音は意識を集中させ、音を中心に集め息の量を調節して!』など明確で、毎回学びの連続です。曲はほぼ初見で、最初は戸惑い、周囲のシスターの声に助けられ歌っていましたが、最近は歌える曲も増え楽しさも倍増しています。最初は技術的なことばかりに気を取られていましたが、歌声が祈りであるということ、主の御言葉を伝えるために優しく清らかに響かせることを学び、上手に歌うより祈りを込めることが大切なのだと感じるようになりました。」

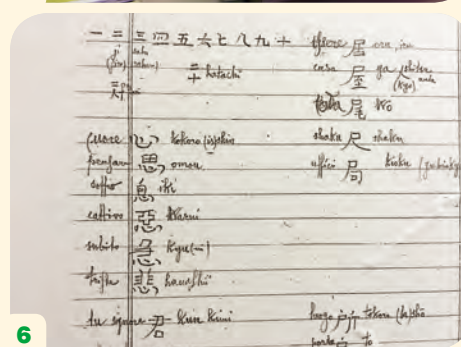
「私のスモールクワイアとの出会いは2011年に遡（さかのぼ）ります。ニコラ・バレでの集いで初めて耳にした歌声は、一点の曇りもない澄み切った見事なハーモニー。聖歌が大好きな私は一度で魅了されました。初めて参加した公開練習の日、1時間の練習を終え井荻駅に向かう私は“大げさ”と思われるでしょうが、完全に満たされた心とまるで天国への階段を上っているような軽い足取りでした。聖歌は歌うたびに私の心の奥深くに、その時によっていろいろなことを語り掛けてくれます。」

この2人のように公開練習に参加し、教会の聖歌隊で分かち合ってくださいていることも私たちの力になっています。





日本の人びとを愛した チマッティ神父の遺徳をしのぶ



1. 館長のガエタノ・コンプリ神父とチマッティ資料館の外観。 2. 音楽家としてオペラやミサ曲のほか多数の童謡も作曲し、全国の子どもたちに歌われた。 3. 資料館2階のイタリア製ステンドグラス。母に高く持ち上げられドン・ボスコを見つめている少年は、2歳のヴィンチェンツォ。1882年にドン・ボスコがイタリア・ファエンツァを訪れた際の出来事を表している。 4. チマッティ資料館、2階展示室の内観。 5. 「チマッティ神父が使っていた鞆。清貧の人だった。 6. チマッティ神父来日直後の漢字練習ノート。 7. 調布サレジオ神学院の地下聖堂にあるチマッティ神父のご遺体を納めた石棺。



チマッティ資料館

●資料館の見学時間 9:00～12:00 / 13:00～17:00 案内者不在の場合があるため、電話にてご確認・お申し込みのうえ、ご来館ください。
●お墓への巡礼 7:00～18:00 調布サレジオ神学院 地下聖堂内
●毎月のミサ 毎月6日10:30～ サレジオ神学院の聖堂でミサをささげ、チマッティ神父の取り次ぎを祈っています。どなたでも参加できます。
●見学申し込みと連絡先
東京都調布市富士見町3-21-12 サレジオ神学院内
チマッティ資料館（館長 ガエタノ・コンプリ神父）
TEL：042-482-3117 E-mail：db@v-cimatti.com
http://www.v-cimatti.com

V i s i t t h e S a l e s i a n F a m i l y

● チマッティ資料館

サレジオ会 調布サレジオ神学院
東京都調布市

○世界中から慕われる チマッティ神父

今から92年前の1926年、日本に来てサレジオ家族の種をまいたのが、ヴィンチェンツォ・チマッティ神父を団長とするサレジオ会宣教師団でした。

2歳の時にドン・ボスコと出会い、10代の時に宣教師の話を聞いたチマッティ少年は、いつか宣教師になって遠く貧しい国に行きたいという夢を抱いていました。やがてサレジオ



ヴィンチェンツォ・チマッティ神父
Vincenzo Cimatti

1879年イタリア・ファエンツァ生まれ。25歳でサレジオ会司祭となる。1926年46歳の時、サレジオ会宣教師として初来日し、多くの日本人司祭・修道士を育成。音楽家としても900曲以上作曲している。1965年10月6日、86歳で帰天。

会司祭となった彼は、イタリア・トリノの名門ヴァルサリチェ学院の校長として、教え子たちから大変親しまれました。この学院は当時、サレジオ会司祭をめざすすべての修練者を養成する神学校で、長年ここで教師・校長を務めたチマッティ神父は今でも「世界中のサレジオ会宣教師の父」として慕われています。

○苦境を乗り越えて日本に種をまく

46歳の時、チマッティ神父はその輝かしい地位を捨て、貧しく困難の多い国、日本へと旅立ちました。1926年、日本に到着すると、小学校の教科書で必死に日本語を勉強し、2年後には出版事業（現在のドン・ボスコ社）をスタート。世界大恐慌や第二次世界大戦の苦境にもくじけず、日本の未来を担う青少年を育てるため、教会、神学校、職業

学校、児童養護施設など、現在の日本のサレジオ会事業の土台を築きました。人びとのために生涯祈り続けながら、1965年86歳で帰天しました。

○列聖列福調査の資料を収めた 「チマッティ資料館」

生前から「日本のドン・ボスコ」として慕われたチマッティ神父の列聖運動（聖人に列せられるようパチカンに求める運動）は、帰天した翌年に始まりました。その中心となったアルフォンソ・クレバコーレ神父は、日本とイタリアで資料を収集し、10年の歳月を経て、1976年に列聖列福調査を教皇庁に申請。1983年、集めた貴重な資料を保存し、師の遺徳をたたえるため「チマッティ資料館」が建てられました。列聖列福調査の結果、

チマッティ神父は1991年、聖ヨハネ・パウロ2世教皇により「尊者」とされました。

○チマッティ神父の 遺徳をしのぶ展示物

チマッティ資料館は、調布サレジオ神学院に隣接する2階建ての建物で、1階には事務室と音楽資料室、2階には展示室があり、次の貴重な資料が展示されています。

・・・

【楽譜】チマッティ神父が作曲した950以上の楽譜。大部分は直筆。オペラ「細川ガラシア」など40以上の歌劇、19のミサ曲、無数の歌曲など。

【著作全集】教育学と自然科学・農学の博士号をもつ師は、『教育学教科書』、『ドン・ボスコの予防教育法』、『農学教科書』、

『農家の手引書』、農業雑誌に寄稿した記事（15年分・463件）などを執筆。機関誌「Bollettino Salesiano」に寄稿した日本に関する200以上の記事、日本を紹介した著作『日の出国』、『宮崎県の動物・植物の自然分類一覧』、宣教師や戦死した日本人会員の伝記など。

【手紙】師が毎月サレジオ会の長上に宛てて送っていた報告や、個人・教え子などに宛てた手紙6,300通。

【日誌】1926～1949年に管区長として書き記した日誌など。

【標本】師が収集した植物・昆虫・貝類・鉱石の標本や化石。大部分は教え子たちが寄贈したもの。

【書物】師がサレジオ神学院図書館のために取り寄せたもの。1800年代から、古くは1500年代の神学書、聖書、教会史・キリ

スタン史関係の書物など。

・・・

ほかにも、数千枚の写真や私物、説教やピアノ演奏の録音があり、チマッティ神父ら初期のサレジオ会員が各地で2千回ほど行ったコンサートのプログラム数百枚と新聞記事も残されています。列聖列福調査のため教皇庁に送られた公の書類や証人の証言なども見ることができます。

資料館では、これら膨大な量の手紙・写真・演奏・楽譜などの資料をもとに、チマッティ神父に関する出版物やCDを制作し、オペラやコンサートの企画・上演も行っています。詳しくは資料館のウェブサイトをご覧ください。

チマッティ神父の列聖列福運動は今も続いています。チマッティ神父の取り次ぎにより神様からのお恵みをいただいた方は、資料館のコンプリ神父へご連絡ください。

青少年

サレジオ会青少年司牧
野尻湖少年聖書学校を開催

野尻湖少年聖書学校の様子

2018年8月8～17日、今年で46回目となる「野尻湖少年聖書学校」が野尻湖サレジオ山荘（長野県上水内郡）で開催された。

このキャンプは、小中高生の男子を対象に、サレジオ会日本管区の青少年司牧委員会が主催して毎年野尻湖で行っているキャンプ。多くのサレジオ会員がかつてこの聖書学校に参加し、司祭・修道召命を考え始めた。司祭・修道召命の芽生えを目的とするだけでなく、キリスト者が少数である日本にあって、信者の友達と出会い、信仰を分かち合うことを通して、キリストの弟子として喜びと誇りをもって歩むことができるようになることを目指している。

今年は小学生の部・中高生の部合わせて日本各地から66人が参加。大自然の中で、祈り、聖書学習、レクリエーションなどを仲間とともに体験し、充実したキャンプの日々を過ごした。

SYM Japan サレジオ青年
イスラエル聖地巡礼を開催

2018年8月9～19日の11日間、SYM (Salesian Youth Movement: サレジオ青年運動) Japanの聖地巡礼が行われ、サレジオ関係の青年、サレジオ会司祭、サレジオ・シスターズ、イエスのカリタス修道女会のシスター、サレジオ同窓

会連合からのサポーター等、22人が参加した。



SYM Japan イスラエル聖地巡礼の参加者

今回は2015年（ドン・ボスコ生誕200周年）にSYM Japanが発足して以来2度目の海外巡礼。日本各地から、学生、同窓生、サレジオ・スクールの教員、教会の青年など多様な参加者が集まり、SYM Japan担当司祭の浦田慎二郎神父やSYM事務局の青年たちにより1年以上前から準備され、出発までに4度の準備会が開催された。

参加者はイエスゆかりの地であるベツレヘム、ナザレ、ガリラヤ湖、エルサレムのほか、キリスト教の歴史を理解するうえで重要なカイサリア、マサダ、クムラン、ヤッファなどを訪問。毎日お告げの祈りを3回唱え、ミサを捧げ、分かち合いと黙想の時をもった。参加者は自らの人生の歴史と、イエスの生涯を重ね合わせながら、イエスが行い伝えたことの意味を想像し、それぞれにとつての聖書のメッセージを「よき知らせ」としてとらえ直す充実した旅となった。

同窓生

サレジオ同窓会日本連合
世界連合幹部が訪日、会合を開催

2018年7月28日、サレジオ同窓会日本連合（サレジオ高専、サレジオ小学校中学校、サレジオ学院、大阪星光学院、日向学院）は、会長レベルおよびワーキングチーム（WT）の会合を新横浜プリンスホテル（神奈川県横浜市）で開催し

た。同窓会連合は、設立から3年が経過し、具体的なプロジェクトを進めていくため2017年秋に各同窓会の若手同窓生からなるWTが発足。広報、アジア大会（2020年日本開催）、財務・法人化の3グループが連携しつつアイデアを出し合い、その具体化を進めている状況について、WTメンバーが報告した。

サレジオ同窓会連合の会合参加者。
世界連合幹部を囲んで。

今回合には、世界連合幹部のアンヘル・グディーニャ副会長（青年部代表）とアルベルト・ピエダダ評議員（アジア青年部代表）が参加。同窓会連合のAnimation Visit（養成・活性化）のための訪日で、2人は世界連合の成り立ちや今後の方向性、アジア各国の同窓会連合の現状、同窓会青年部を活性化するための必要性などについて詳しく説明した。2020年に日本で開催を予定しているアジア大会に向けて意見交換も行われた。

会議後の懇親会では各同窓会の代表が母校同窓会の現状や取り組みを紹介。世界連合幹部らは、日本連合が多様な文化・宗教・伝統をもつアジアのサレジオ同窓会において手本となってほしいと期待を述べた。

また、世界連合幹部らは日本滞在中に、チマッティ資料館、カトリック碑文谷教会、サレジオ工業高等専門学校、町田サレジオ幼稚園、サレジオ学院などサレジオ関係施設も視察訪問した。

教育・福祉

サレジオ家族教職員養成講座
2018年度も盛況のうちに開講中

サレジオ家族教職員養成講座で学ぶ参加者

サレジオ家族の学校・事業所に務める教職員を対象に「サレジオ家族教職員養成講座」が2018年度も2か月に1回のペースで、サレジオ会の研修施設サイテック（東京都杉並区）で開催されている。参加者の教職員は若手からベテランまで普段所属する職場の垣根を越えて、ドン・ボスコの人間性、青少年とのかかわり方、アシステンツァ（共にいること）などのエピソードを学んだり、事業・校種ごとにグループを作って、日頃の実践や課題について分かち合いを行ったりする良い機会となっている。

静岡サレジオ
夏季教員研修会を開催

静岡サレジオ夏季教員研修会の様子

静岡サレジオ（静岡県静岡市）では、2018年8月29日、新学期を迎えるにあたり、幼稚園・小学校・中学校・高等学

校の全教員を対象にした教員研修会を同校で開催した。

研修テーマは「資質と能力のIntake～対話によるインタラクション～」で、午前はアクティブラーニングの研究で第一人者の溝上慎一氏（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）による「意味ある対話（関わり）によるインタラクション」の講演を聞き、午後は幼小中高の各ステージに分かれて分科会・全体会を行った。今年のストレンナをふまえ、「対話の基本は傾聴にあること」を確認しつつ、教職員一同が子どもたちとの日頃のかかわり合いをふりかえった。「主体的・対話的で深い学び」のよりサレジオらしい実践を目指して、今後も研修を重ねる予定である。

星美ホーム
職員研修会を開催

星美ホーム職員研修会の参加者

児童養護施設 星美ホーム（東京都北区）は、2018年9月12～13日の2日間、山中湖サレジオ・シスターズ霊性センター（山梨県南都留郡）で、職員研修を開催した。これは数年前から星美ホームで行っている階層別研修の一環で、今回はリーダー層を対象とするもの。

園長の熊本幸子シスターの指導のもと、サレジオ会の浦田慎二郎神父を講師に招き、「ドン・ボスコはどのようなモチベーションで子どもたちを世話していたのか」「ドン・ボスコの愛とはどういうものか」などについて現場に照らし合わせながら分かち合い、職員の意識統一を目指した。和やかな雰囲気の中、子どもたちに向け

る職員の情熱が静かに、しかし熱く感じられる研修となった。

修道会・信徒の会

サレジオ・シスターズ
社会広報研修会を開催

サレジオ・シスターズの社会広報研修会の様子

2018年5月27日、サレジオ・シスターズは扶助者聖マリア修道院（東京都北区）で「社会広報研修会」を開催。聖パウロ女子修道会の小尾シスターを講師に招き、「現代メディアによる宣教」について学んだ。各地から約40人のシスターが参加し、サレジオ・シスターズが対象としている現代の青少年の生活には欠かせないものとなっているSNSやインターネットについて学び、分かち合いを行った。

サレジオ会
新管区長に濱口秀昭神父が就任

管区長交代にあたり、山野内司教（前管区長、右）と新管区長の濱口神父（左）はローマのサレジオ会総本部を訪問。フェルナンデス総長を囲んで。

2018年6月28日、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神

父は、サレジオ会日本管区の第14代管区長として、使徒ヤコブ濱口秀昭神父を任命した。任期は、2024年までの6年間となる。

濱口神父は、1958年長崎県佐世保市生まれ。1988年にサレジオ会で終生誓願を立て、1990年に司祭叙階。長く東京サレジオ学園で勤めた後、2005年からは当時溝部脩司教が教区長を務めていたカトリック高松教区に派遣された。2010年からは調布サレジオ神学院で養成の任務にあたり、神学院長、日本管区の副管区長といった要職を歴任してきた。

2018年4月からは副管区長に加え、日本管区の青少年司牧委員長や目黒支部院長を務めていたが、6月に山野内倫昭前管区長がカトリックさいたま教区司教に任命されたことに伴い、濱口師が管区長に就任した。

翌7月、管区長交代にあたり、山野内倫昭司教と新管区長の濱口秀昭神父はローマのサレジオ会総本部を訪問し、総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父と会談した。

東日本大震災 物故者慰霊洋上供養会



東日本大震災物故者慰霊洋上供養会に参列したサレジオ家族メンバーと筒井住職

2018年7月13日、福島県いわき市で「第7回東日本大震災物故者慰霊洋上供養会～復興への祈り～」が開かれ、サレジオ家族から山野内倫昭司教（さいたま教区、サレジオ会）、イエスのカリタス修道女会、ADMA扶助者聖マリアの会のメンバーが

参加した。

この供養会は、2011年の東日本大震災で発生した大津波の犠牲者を弔うとともに、早期復興を被災地から祈念するため、宗教の垣根を越えて交流、平和と安寧、鎮魂の祈りを捧げようと、2012年から毎年開催。山野内倫昭司教は供養賛同者会代表の天台宗福島薬師寺筒井叡観住職と2014年から供養会を通じて知り合い、供養賛同者会のカトリック代表として協力している。

供養会は午前10時から午後12時まで、江名港（福島県いわき市）の特設会場で執り行われ、今回東京ADMAからも6人が初めて参列した。供養賛同者会事務局の細部に渡る行き届いた事前の準備と、当日の滞りのない式次第の運びの一つひとつに、今なお消えぬ犠牲となられた多くの方々への哀悼の深さを同じくする絆の深さが表れていた。参列者は各宗教者代表の祈りに心を合わせ、犠牲となられた多くの魂を追悼し、被災地の復興を真摯に願った。

サレジオ6教会の集い カトリック調布教会で開催



サレジオ6教会の集いの参加者。調布教会にて。

2018年7月22日、「第48回サレジオ6教会の集い」がカトリック調布教会（東京都調布市）で開催され、サレジオ会が司牧を担当する首都圏の6教会（足立・鷺沼・下井草・調布・碑文谷・三河島）から酷暑の中にもかかわらず、約200人が参加した。

聖堂で「教会の祈り」を捧げた後、隣接するチマッティホールで懇親会（各教

会の近況報告や出し物）が行われ、交わりのひと時を楽しんだ。山野内倫昭師が司教に任命され、新管区長に濱口秀昭神父が就任して間もない時で、喜びの雰囲気にも包まれた集いとなった。

サレジアニ・コオペラトリー フィリピンの学生の来日をサポート



ボスコーレとサレジアニ・コオペラトリーのメンバー

2018年7月、フィリピン・マカティ市にあるDon Bosco Technical Institute（ドン・ボスコ工科大学）のコーラグループ「ボスコーレ（Boscorale）」の30人余りのメンバーが、東京国際合唱コンクールに出場するため来日。調布サレジオ神学院（東京都調布市）での約1週間の滞在中の食事などを、サレジアニ・コオペラトリー調布支部のメンバーがサポートした。ボスコーレのメンバーは調布教会でのミサで美しいハーモニーを、ミサ後もホールでのミニコンサートで天使の声を響かせた。また、同行したDonnie Duchin Duya神父はコオペラトリーのメンバーと分かち合いの時をもつなど、よい交流の機会となった。

2018年10月1日発行(年2回4月・10月発行)

編集人 関谷 義樹
発行人 濱口 秀昭
発行所 カトリック・サレジオ修道会
「ドン・ボスコの風」編集事務局
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
電話:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
Eメール: dbw@salesians.jp
編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社
印刷所 日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。
© カトリック・サレジオ修道会 2018

「ドン・ボスコの風」について ――

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した“Bollettino Salesiano”の日本版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

本誌をご希望の方へ ご寄付のお願い

本誌をご希望の方は、上記奥付の「ドン・ボスコの風」編集事務局までお申込みください。本誌は無料配布ですが、趣旨にご賛同くださる皆様のご支援をお願いします。下記の振込口座まで（または本誌綴じ込みの払込用紙にて）ご寄付いただいた方には次号より1部贈呈いたします。

郵便振替口座番号 00100-7-412947

加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局



次号No.22は 2019年4月発行予定です。

「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ <http://salesians.jp> (トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」) でご覧いただけます。

編集後記

相手が自分に関心があるかどうかは、その聴き方でわかるものです。特に子どもたちは敏感にそれを見分けます。聴き方次第で、愛されていると感じたり、そうでないと感じたりします。あまりに話すこと、伝えることに重きを置きすぎていないかどうか、自分の「聴き方」について見直す特集になりました。アシステンツァの基本は「聴く」ことなのです。(S)

サレジオ情報の投稿を お待ちしております！



本誌へのご意見やご感想、またサレジオ家族の学校・施設・活動グループ・教会・修道院での出来事の写真とコメントを、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・ご希望のプレゼント(下記A～E)を明記し、お送りください。

ご記入いただいた個人情報は賞品発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

応募締切 **2019年2月28日**

[Eメール] dbw@salesians.jp

[F A X] **03-3353-7190** (「ドン・ボスコの風」編集事務局宛)

[ハガキ] **〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12**
サレジオ会日本管区本部 「ドン・ボスコの風」編集事務局



写真はイメージです。

A サレジオ会フェルナンデス総長 来日記念グッズセット 「ようこそ日本へ!」クリアファイル／ アクリルキーホルダー

ドン・ボスコの後継者であるフェルナンデス総長が、2018年11月に来日するにあたり制作された記念チャリティーグッズを特別にプレゼント! この恵みの時を共に喜び祝おう。

ファイル A4サイズ／キーホルダー 56×34mm、厚さ3mm

B 『み言葉とともに 生きる、学ぶ、喜ぶ』

イエズス会司祭である著者が、ミッションスクールの教員・校長を務める中で、聖書の物語、先達の生きた証し、自らの生い立ちや経験を振り返りながら生徒たちに語りかけた思いの数々。未来へ踏み出す一歩を後押ししてくれる。

李 聖一 著／杉岡陽水 書 四六判並製 205頁 ドン・ボスコ社

つくっちゃいました♡

LINEスタンプ「ドン・ボスコくん!」、
ついにリリース!

ダンディなお茶目でハートフルなドン・ボスコくん。たまに登場する愛犬グリージョ。日常会話にほっこり笑顔を咲かせちゃオ!

スタンプショップへGO! 「ボスコ」で検索! <https://line.me/S/sticker/4593837>



今、私「〇〇」しています！

サレジオ会神学生

堤 峻作 さん

Ryosaku Tsutsumi

パプアニューギニアで
「宣教体験」を
しています！



食生活や日焼けで、どんどんパプア人になっていく！

どこで働いていますか？

こんにちは!! 南太平洋にあるパプアニューギニアの首都ポートモレスビーから車で約8時間、そこからポートに乗り、最後はトラックでジャングルの中を1時間走った場所に、私の派遣先であるサレジオ会のアライミリ支部があります。この支部は、インド、エクアドル、ベトナム、パプアニューギニア、日本からなる多国籍共同体で、PGSパプアニューギニア・ソロモン諸島準管区の中で最も大きな共同体です。全寮制の高等学校、小学校、幼稚園、2つの教会もあります。私は2018年4月から実地課程生として、また1年間の宣教体験のために派遣されています。



やんちゃだけど素直な生徒たちと一緒に

私はサレジオ会のジュニア志願生だった高校生のときに「宣教師として生きたい」と思うようになりました。小さい頃の主任司祭、志願院での講話、タイでのボランティア体験や大学での勉強など、たくさんの出会いや体験を通して、その望みは強くなっていきました。

どんな生活？

私の仕事は、高校での男子生徒のアシステンツァ（共にいること）です。生徒たちの朝5時半の起床から夜10時半の就寝まで、食事、自由時間、作業、スポーツなどの時間を一緒に過ごし、彼らの生活に同伴します。授業は体育と宗教を担当しています。

ジャングルでの生活には苦労していますが、工夫しながらここでの生活を楽しむようにしています。作業やスポーツの合間にはココナッツを取ってみんなで飲み、食べます。とても甘いパイヤもバナナも食べ放題。ワニやイモムシ、

ムササビだって食べます。かなり暑いので校舎裏のビーチで海水浴をして身体を冷やします。生徒たちは私が同じものを食べているときや日焼けで肌が黒くなっていくのを見て「どんどんパプア人になってきたね」と喜んでくれます。

大変なこと、喜びは？

生徒たちとは格闘の日々で、喫煙やビートルナッツ（噛みタバコ的一种）は毎日見つかります。彼らと口論したり説得したりするのは大変ですが、妥協はしません。大麻やカルト宗教も時々問題になります。そのようなものに依存している生徒には根気強く関わり、サポートしています。生徒たちは私のことを兄のように慕ってくれます。親しみを出すために話すときはできるだけ彼らの母語のピジン語を話します。様々な話をして生徒たちの視野を広げるように努めています。彼らは悪いことはしますが、とても素直です。叱られた30分後には生徒から謝罪の握手を求めてきます。

全員が貧しいですが、惜しみなく食べ物や持っているものを分け合っています。つらい時もありますが、日本で祈ってくださっている方々を思い出すと力が出ます。なにより、暗い顔をしていると生徒たちが私を放っておきません。次々と声をかけられ、いつの間にか笑顔になっています。自分でも不思議なほどに、心の底から充実感と幸福感を味わっています。これからも神様が送ってくださる場所で、喜びをもって働きたいと思います。



学校のスタッフと民族衣装でお祝い!

堤 峻作 つつみりょうさく
Ryosaku Tsutsumi

1994年福岡県生まれ。光丘教会出身。2010年高校1年生の時に四日市サレジオ志願院に入り、2013年調布サレジオ神学院に進学。2016年3月初誓願宣立。2018年3月上智大学総合人間科学部教育学科を卒業し、4月からパプアニューギニアで実地課程中。趣味はラジオを聴くこと、舞台鑑賞。特技はパプア人の神父様と練習した鶏の鳴きまね。

Salesian Life Story

サレジオンライフストーリー ドン・ボスコのように生きる



ありがとう！ 石井靖人神父 子どもたちのために 生涯を捧げた人

2016年11月16日、サレジオ会司祭 使徒ヨハネ石井靖人神父が、東京都足立区の病院でがんのため帰天した。小さい頃から過ごした児童養護施設で出会ったシスターや神父たちの姿を見て、この道を選んだ石井師の生涯は、まさに子どもたちのためにすべてを捧げたものであった。

(編／サレジオ会・編集部)



“*Misericordias Domini in aeternum cantado*”

「主のいつくしみを 永遠にたたえます」

(詩編89編2節)

石井師は1938年（昭和13年）京都市伏見区で生まれました。家族は両親と6人姉弟。末っ子の男子で、5人の姉にとてもかわいがられたといいます。戦争が始まった1941年に、一家で父の本籍地である広島県福山市に移り、父は営林署に勤めていました。終戦間際の福山市の大空襲（1945年8月8日）も体験しました。

後にサレジオン・シスターになった上から2番目の姉（石井敏子シスター 1925～2007年）の影響で、家族はみな戦争中でしたが福山市のカトリック教会に通って信徒となり、靖人少年も終戦の年に洗礼を受けました。➤

終戦後の1947年、小学3年生のとき父が病死。母1人で6人を養うのは厳しく、2番目の姉・敏子と共に、サレジオン・シスターズの児童養護施設である明星学園（大分県別府市）に入園。小学6年生からはサレジオ会の児童養護施設ドン・ボスコ学園（大分県中津市、現・聖ヨゼフ寮）に移りました。

サレジオ会員になった道のりについてはこう述べています。「召命については、なんとなく最初は家族に言われたままだったと思います（笑）。でもドン・ボスコ学園で中学3年の卒業式の直前に、目上のところに行って『神父になりたいと思います』と言いました。明星学園やドン・ボスコ学園など、小さい頃からの体験として子どもが好きで神父になりたい。それならこのままサレジオ会だろうなと思いました」。

高校時代は、日向学院（宮崎県宮崎市）に隣接するサレジオ志願院（小神学校）へ。科学が好きで、こっそり理科室に潜り込んでは実験をする位ずら少年だったそうです。高校卒業後、サレジオ神学院（東京都調布市）で1年間の修練期に。修練長はタシナリ神父で、院長はチマツティ神父でした。1958年に初誓願、その後の養成期間を経て1967年12月21日東京カテドラルで司祭に叙階されました。

司祭叙階後は、日向学院で理科教諭として、また小神学校のアシステンテとして7年間奉職。1975年からは16年間、ドン・ボスコ学園で園長や修道院長の務めを果たしながら、家庭的に恵まれない青少年のために奉職。その後、大分県のカトリック玖珠教会の主任司祭と幼稚園の園長、東京都の三河島支部の修道院長とドン・ボスコ保育園の園長を務めました。2005年から最後の務めになったカトリック足立教会の主任司祭と足立サレジオ幼稚園の園長として奉職。2016年5月、脳に腫瘍が見つかり手術を受け、入退院を繰り返しながらも治療を受けつつ、仕事を全うしました。

飄々とした性格は、仕事の面でも信仰生活の面でも、物事にとらわれない師を特徴づけるもので、他人の欠点や落ち度を素直に見過ごし、何事もなかったかのようにやり過ごしながら、後片付けをする姿は度量の広さを示すものでした。これは闘病生活においても同様で、見舞いに来た人に苦しみや辛さを述べることは一切なく、かえって安心させるのでした。

信心深く、特に聖体の力と聖母の助けを信じていました。なにより子どもが好きで、それぞれの任地で子どもたちのために働くことを厭いませんでした。飾らず自分から人前に入るタイプではありませんでしたが、やさしく心ある人柄で、多くの人から、特に子どもたちから慕われていました。

使徒ヨハネ

石井 靖人

いしい やすと

1938年6月1日京都市生まれ。1967年12月21日司祭叙階。サレジオ会の学校、児童養護施設、幼稚園などで奉職。2005年よりカトリック足立教会主任司祭、足立サレジオ幼稚園園長。2016年11月16日帰天。修道生活58年。司祭生活49年。享年78歳。

フェルナンデス
総長
来日

青少年と共に、喜びをもって生きよう。



フェルナンデス総長から
日本のサレジオ家族の皆さんへ
ビデオメッセージ

<https://youtu.be/V1d41F0mrZA>



「日本への訪問はとても楽しみで、幸せな気持ちです。一緒にこの時を準備しましょう。この機会に、ドン・ボスコが私たちの父であることを意識し、祝うことができるでしょう。私たち皆がサレジオ家族であることを喜び祝うことができるでしょう。私たちの反省や分かち合いもしましょう。そして、皆さんとたくさんの記念写真を撮りましょう。サレジオ会の使命の中心であり優先すべき、青年たちとも一緒に過ごしたいと思えます。皆さんと日本で出会えるのが楽しみです。」

サレジオ会総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父



2018

Bienvenido a Japón!

Padre Ángel Fernández Artime
El Rector Mayor de los Salesianos

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父 第11代 サレジオ会総長 ようこそ日本へ

フェルナンデス総長来日中のサレジオ家族のイベント (主な予定)

【宮崎】

日向学院記念館

2018年11月9日 金
9:00~11:30

サレジオ家族のミサ
歓迎式典

どなたでもご参加いただけます。

【東京・調布】

調布サレジオ神学院／調布教会

2018年11月10日 土
16:30~21:00

SYMの集い☆スペシャル
～総長と若者の集い～

(夕食、レクリエーション、分かち合い、祈りなど)

対象：サレジオ家族に関係する高校生～30歳の青年男女
★事前申込が必要です。詳細は本誌P.19をご覧ください。

【東京・赤羽】

星美学園 (短大講堂・聖堂・小学校多目的ホール)

2018年11月11日 日
15:00~20:00

サレジアン・ファミリーデー
(アカデミア、ミサ、祝賀会)

どなたでもご参加いただけます。